

欠けているもの一つ

マルコによる福音 10:17-30

(そのとき、) イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんのお金を持っていたからである。

イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にはできないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」ペトロがイエスに、「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いだした。イエスは言われた。「はっきり言うておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。しかし、先にいる多くの者が後になり、

後にいる多くの者が先になる。」

説教

あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。

欠けている一つのものとはなにか？ イエスは金持ちに全財産を施しなさいといひます。

この福音を受けて、伝統的には永遠の命より高次のもの、祭司職に就くとか、修道生活に入るとか、いわゆる出家することとされてきました。プロテスタントでいえば牧師になるとか、教会の事務職に就くとかが出家にあたります。それができない人はいわゆる在家として礼拝にでて、献金（月定献金も）して、聖餐にあずかることと解釈されてきました。人生を神の前にさしだすこと、それができないのなら自分の稼ぎの中から献金をすること、これがイエスが諭した「天に富を積むこと」、そして欠けているものを補うことだされてきました。

でもそうじゃないかも？

というのはいくら献身者があらわれようが、信徒がいくら献金しようが、神の国の気配はいっこうに感じられません。世界は混乱しているようにしかみえません。イエスは富と神は相容れないと二度告げています。

イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」

国家がいくら富んでも、会社がいくら儲けても、金持ちがさらに金持ちになっても、貧乏が克服されても、いっこうに救いが見えてこない。経済と神は相性が悪いんじゃないか？ということこそそろそろまともに議論しようじゃないかということです。

あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。

あなたはいかなる像も造つてはならない。

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

安息日を心に留め、これを聖別せよ。(出20:3-8)

イエスが金持ちに説教したときに省略された十戒の前半部分から考え直してみてもいいかという解釈もそのひとつです。十戒を原理主義的に凝り固まることなく、見直しができる歴史をわたしたちはもっているはずです。

きょうのイエスのことばをとおして教会が、そしてわたしたち一人ひとりがイエスに従う道を見つけられますように。
